**指導ノート**

***取り上げる生活上の行為の事例***

（3501050）「自治会の会員になる」

（3501100）「行事に参加する」

***教室活動の目標***

－地域社会に参加して住民とつながりをもつ。

***教室活動のねらい***

－自治会参加の意思を伝えることができる。（活動２）

－参加の方法について質問することができる。（活動２））

－行事について情報を得ることができる。（活動３　活動４）

　 　－行事を通じてほかの会員と交流できる。（活動４）

・　日本に来て間もない外国人にとって，日本社会に溶け込むきっかけは見つけにくいものです。長年日本に住んでいる外国人でも，人によっては同じかもしれません。自治会に入って，災害に備えて防災訓練に参加したり，夏祭りや町会のバザーなどに協力したりすることで，多くの住民とつながることができるでしょう。ここでは，そのための足掛かりを提示しています。また自治会主催のほかにも，商店街や地域の学校主催の催し，区や市が主催するフェスティバルなど，様々な地域の取り組みをここで紹介しておくと，よいでしょう。

・　地域によって，多言語での生活情報の冊子や災害対策の冊子を発行しているところが増えています。そのようなものがあれば，地域の出張所などに置いてあるので，学習者に配布し，何がどこに書いてあるかを皆で確認しながら一度目を通しておくと，役に立つでしょう。

***活動前に確認しておくこと***

－地域の自治会の活動内容

－地域の防災訓練などの日程

　（外国人向け防災訓練や防災教室がある自治体もあります）

－自治会主催以外の地域の催し

***準備する素材***

－学習者の居住地域の自治体が発行している地域の多言語情報誌など

－（もしあれば）地域の自治会入会申込書

－地域のお知らせ情報（街の掲示板のお知らせや回覧板のお知らせなど）

－活動１で使用する台形のカード（画用紙または厚紙で，学習者一人につき

６枚ずつ）

***教室活動の展開の説明***

***イメージをつかむ***

**●イラスト・写真シート**

**私も いっしょに　（p.189）**

・　「イラスト・写真シート」（p.189）を見せて，それぞれ，何をしているのか，見たことがあるか，どんな人たちが参加していると思うかなど聞いてみましょう。服装や周りの様子などから，季節を想像してもらってもいいかもしれません。ほんの一部ではありますが，年間を通していろいろな活動があることが見えてきます。しばらく，「イラスト・写真シート」（p.189）について，やり取りした後で，これが自治会または町会(町内会)の活動であることを伝えてください。そして，学習者が地域の人たちと現在どのような関係にあるか，話してもらいましょう。さらに可能であれば，自国の町で自治会のような組織があるか，または住民同士のつながりはどのようになっているかなどについて聞いてみてはいかがでしょうか。

＜問いかけ例＞

「近所の人に挨拶しますか」

「近所の人と話しますか。どんなときに話しますか。何を話しますか。」

「あなたの町で盆踊りやバザーなど見たことがありますか」

　　　「町の盆踊りやお祭り，防災訓練に参加したことがありますか」

「あなたの国では町会がありますか。」

「あなたの国では町でどんなことをしますか。」

***体験・行動する***

**■活動シート**

**・活動１－大切なことは？　（p.190）**

・　ここではまず，地域住民とつながることによって，どんないい点があるかを考えることで地域社会への参加の動機付けを行います。近所の人と知り合いになっておくと，日常生活でのちょっとしたやり取りで，住みやすい環境作りができるとともに，防犯や，いざというときにも心強いものです。また地域住民との絆は，地震など災害が起こった時の物心両面での支えにもつながります。

・　地域住民とよりよい関係を築くためのイメージトレーニングとして，個々に何が大切かを考えてもらいます。完成したら，ほかの学習者のものと比べ，簡単な意見交換をすることで，コミュニケーションで大切なことを意識してもらうことを目的としています。もちろん，日本語初級者にとって，カードに思っていることを書くことは難しいでしょう。「笑顔（smile）」，「ゆっくり（slow）」，「はっきり（clear）」，「目を見る」など簡単な言葉，あるいは絵でも構いません。意見交換と言っても，自分が大切だと考えていることが身振り手振りでも伝えられればそれでよいでしょう。指導者や協力者もいっしょに参加するつもりで進めてください。

・　学習者一人につき６枚ずつ，画用紙または

厚紙で作成した台形のカード（右図参考）を

配布してください。並べ方など示すために，

一組余分に作成しておくとよいでしょう。

***体験・行動する***

**■活動シート**

**・活動２－近所の人と話してみよう（p.191～192）**

・　ここでは，近所の人とのちょっとした会話の場面を提示しています。ゴミ出しのときと相手の家に自国の料理を持って行ったときの会話が示してありますが，このほかにも，店や駅で会ったとき，回覧板を回す時など，会話の場面はいくつもあるので，様々な場面を設定して，会話を練習してみてください。

・　会話例１では，自治会参加の意思を伝えています。この後の流れとして，自治会役員の人が訪ねてきて，簡単に自治会の説明（会費など）をし，学習者は申込書の記入を求められて記入する，その際，分からない部分を聞く，そのほかに聞きたいことを質問する，などのタスクが考えられます。必要に応じて，会話練習を行ってください。自治会の入会方法は地域によって様々で，自治会の役員や町会長に直接連絡すればそれでよいというところもあるようです。申込書を記入する場合も，フォームは一定ではありません。ただ，基本的な住所，氏名，電話番号，日付はいつでも書けるように，しておきたいものです。一例として以下のフォームをあげておきますので，ここで練習しておくとよいでしょう。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 自治会加入申込書 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成 　年　 月　 日 自治区長 殿

|  |  |
| --- | --- |
| 世帯主氏名  |  |
| 住所  |  |
| 電話番号  |  | 世帯の人 数  | 人  |

　　　　自治会に加入したいので，申し込みます。　 |

　この申込書では，日付は元号で書くようになっています。西暦のほか，元号でも書けるようにしておくとよいでしょう。自治会は世帯単位で入るところが多く，その場合は世帯主，世帯人数を書くようになっています。「世帯」という語彙も，押さえておいてください。地域の自治会の加入申込書がもし手に入れば（インターネットからダウンロードできるようになっているものもあります。），実際にそれに記入してみるとよいでしょう。

・　自治会は，地域住民の自主的な意思に基づき，地域を快適で住みよくするために結成された任意の団体で，コミュニティ作りの中心的な存在です。加入は強制ではないとはいえ，ゴミの収集や防犯パトロールなどその地域に住む限り，多くの恩恵にあずかっています。

・　学習者がその地域住民とつながりを持つことが日本社会で生活していく第一歩であり，自治会加入はその足掛かりとなります。

・　会話例２では相手の家を訪問する場面を提示しています。自国の料理を持って行くほかに，果物や食材など，自国からたくさん送られてきたり，友だちからもらったりしたものをお裾分けする場面なども考えられます。また，分からないことを聞くために隣の家を訪ねることもあるかもしれません。訪問時の挨拶，話題，終わりの挨拶の流れがスムーズにいくように，必要と思われる場面をいくつか設定して，練習してみてください。

　多言語情報例

　　文化庁『日本語学習・生活ハンドブック』

p.61 自治会

***体験・行動する***

**■活動シート**

**・活動３－分からないことを聞こう　（p.193）**

・

・　町の情報は，チラシやポスター，回覧板など，書かれたものが中心です。ここでは，それらを見て分からないことを臆することなく聞けるようにすることを目指しています。

・　「盆踊りのお知らせ」を見て，学習者にまず何が書いてあるか推測してもらいましょう。学習者が分かるのは恐らく，日付と時間の部分くらいではないでしょうか。漢字が分からなくても，例えば，これは開催場所だということが分かれば，それも有用な情報収集です。

・　会話例では，「これは，何という意味ですか」というフレーズがポイントです。ただ，この発話が難しい，あるいは覚えられないという学習者には，指差して「これは何ですか」と質問できれば，十分です。聞かれた日本人は，読み方や意味を話してくれるでしょう。分からないことを聞いて，とにかくそれが分かるようになることが大切です。この「盆踊りのお知らせ」を使って，指導者または協力者が相手になって，学習者に分からないところを質問してもらってください。

・　日本語が分からないゼロ初級に近い学習者には辞書で内容を示してあげるとよ

いでしょう。

・　実際の地域の「お知らせ」を持参して，皆で，どんなことが書かれているか推測した上で，分からないことばを質問してもらうのも有用でしょう。推測することも一つのトレーニングとなります。

***体験・行動する***

**■活動シート**

**・活動４－行事に参加しよう　（p.194）**

・　（１）は，町でどのような行事があるのか，指導者または協力者と一緒に調べることで，地域の行事に興味を持ってもらい，身近に感じてもらうことがねらいです。町に出る時も指導者または協力者が同行してください。掲示板にはこのような情報があるなど実地で説明できるよい機会となるでしょう。（前もって下見をしておくといいかもしれません。）市役所や出張所などにどのような情報誌が置いてあるか，多言語情報誌はあるかなども前もって調べておくとよいでしょう。

・　指導者や協力者が所属している自治会についての行事を年間で把握しておき，自分の体験や行事の様子など伝えてあげるとよいでしょう。年間を通して大体どのような行事があるか，学習者が知っておくのも大切です。

・　町や区，市の行事はインターネットでも調べられることが多くなっています。自治会についても載せているところがあるようです。学習者にとって，日本語でネット検索をしてみるよい機会となりますので，ぜひともここで一緒にやってみてください。

　・　（２）で実際いん行事に参加する際，どのような行事でも構いませんが，できれば防災訓練や清掃ボランティアなど，日本人とコミュニケーションする場面が多くある行事の方が地域住民とつながりを持ちやすいでしょう。学習者が一人で参加するのが心細いようであれば，友だちといっしょに参加することを勧めてみましょう。外国人の方の参加は地域住民に大いに歓迎されるに違いありません。そこで日本人とコミュニケーションして，お互いに知り合いになれれば，学習者も大いに自信が持てるのではないでしょうか。とにかく参加したことで，大きな第一歩を踏み出したと言えるでしょう。

・　 （３）は全ての学習者が一通り行事の参加を体験してから行います。いつ，どこで，どんな行事に参加したか，そこで何をしたか，日本人とどんなことを話したか，参加してどう思ったかなど，話し合うとよいでしょう。学習者の日本語レベルに応じて（初心者レベルの学習者であれば，絵を描いたり，身振り手振りを取り入れるなど），適宜対応してください。同じ外国人として，地域とつながりを持つヒントがお互いに得られるのではないでしょうか。

***ことば・表現を知る***

**◆ことば・表現シート**

**・ことば・表現－地域に関することば・表現（p.195）**

・　ここでは自治会（町会）の行事に関することば，お知らせなど印刷物によく出てくることばや表現を中心に取り上げています。ほかにも授業中の学習者との会話や印刷物などで出てきたことばなどもよく使われるものはここで学習しておきましょう。「～する」といように最後が「する」で終わる動詞が多く出てくるのも特徴です。

***発展的な活動***

・　活動４では，地域の行事に参加して，地域住民とつながりを持つことを目指しました。地域住民とつながりが持てたら，今度はさらに一歩進んで，行事に積極的に関わってみることを勧めてみてはいかがでしょうか。（例えば，バザーのときに国の料理を作って売ったり，盆踊りの会場作りをしたりなど。）

・　地域住民との様々な交流は，学習者の日本での生活を豊かにしてくれることでしょう。